

保育士でもなく 小学校の先生でもない 親と子に寄り添う 地域の子育てを サポートする方、募集しています。

子育て支援員という仕事を知っていますか？

「支援員」と言うとボランティアのように感じてしまうかもしれませんが、子どもたちの居場所をつくり、子育ての助けを必要とする家族をサポートする、社会的にも期待が寄せられているお仕事です。

昔に比べると、核家族や共働きが増え、家庭内で育児を完結させることが難しくなっています。暮らし方や働き方も多様になり、地域とのつながりも疎遠になって、ご近所さんや近くの親戚に子どもを預ける環境も減ってきています。「少子化」と言われるとおり、子どもの数は年々減ってきてはいますが、共働き世帯の増加などを背景に、保育所や放課後児童クラブなどを利用する家庭は増えている一方で、保育士や放課後児童支援員（補助員含む）などの人手が不足しているという課題もあります。子育て支援員は、そんな社会状況のなかで、子育てをする多くの家族を助け、今よりも社会を暮らしやすくする仕事として広がりを見せています。

子育てに関わる仕事は、多岐に渡り、その仕事に就く経路も様々ですが、このガイドブックでは、子育て経験や資格がなくても始められる「子育て支援員」に絞って紹介し、実際にその仕事に従事している方々に取材をしたレポートなどを掲載しています。子育て支援員という仕事が、社会を支える大切な仕事の1つとして理解が広まり、従事してくださる方が1人でも増えるきっかけになり、従事している方々の励みになれば幸いです。

子育て支援員ってなに？

保育の仕事や子育て支援に従事する人を増やす目的で創設された子育て支援員は、子育て支援の新たな担い手です。子育て経験や保育士の資格がなくても、「子育てに関わる仕事がしたい！」と考えているすべての人が対象で、都道府県または市町村が実施する研修（基本研修と専門研修）を受け、認定されれば誰でもなることができる仕事です。

「子育て支援員」には、様々な職域が含まれていますが、放課後児童クラブの補助員や、一時預かりの保育者、ファミリーサポートセンターの提供会員など、様々な場所での活躍が期待されています。

子育てを行う家庭をサポートする仕事

はじまった背景には、深刻な保育士などの人材不足があげられています。

核家族や共働きの家庭が増え、保育所や放課後児童クラブのニーズが年々高まっていますが、その一方で、保育士や放課後児童支援員（補助員含む）などの人手が足りていないのが現状です。

家族が子育てをしながら、働くことができる社会環境をつくるために、すでに子育ての仕事に従事されている方々をサポートするために、子育て支援員はとても重要な役割を担っています。

子どもが育つ豊かな環境をつくる仕事

子育て支援員は、子どもの居場所を提供する仕事でもあります。家族でもなく、保育所の先生や小学校の先生とも違う立場から、心許せる大人として、子どもがのびのびと育つ豊かな時間をつくります。子ども一人ひとりの発達の特徴を理解して、時には見守り、時には教えたり、サポートしたり、そして、一緒に話したり、遊んだりすることで、子どもの育成支援に繋がっていきます。

このガイドブックでは、子育て支援員の仕事の中から以下の3つの仕事を中心に紹介していきます。また、放課後児童クラブに関わる仕事については、子育て支援員の経験を生かして資格取得できる「放課後児童支援員」についても紹介します。

A. 放課後児童クラブの補助員、放課後児童支援員

B. ファミリーサポートセンター提供会員

C. 地域子育て支援拠点職員